

新潟市急患診療センターだより

第1号 2016年7月



発刊にあたって

新潟市急患診療センターは、昭和48年に新潟市医師会休日診療センターとして発足し、平成12年に新潟市公設となり現名称として現在に至っています。医師不足のなか超高齢社会を迎えるにあたって、市民の皆様は急患診療に関する情報の発信を通して、急患診療センターを上手に利用していただくこと、病気の情報提供を目的として発刊しました。最終ページには、診療時間、交通アクセス、救急疾患検索サイトなどのホームページ情報が掲載されていますのでご利用下さい。

病気の知識

こどもの発熱

- 子どもの発熱の多くは、ウイルスによる感染のことが多いのですが、時に細菌感染を起こしていることもあります。
- 風邪などの原因となるウイルスは呼吸器粘膜などの組織を侵し、感染を受けると多くの場合は発熱が起こります。
- 発熱自体はこの感染を治そうとして起こる症状です。
- 体温が高いと、からだはウイルスに対する抗体をつくりやすいし、ウイルスにとってもすみにくい環境なので、ウイルスの勢いは弱まり、病気は治まるということになります。
- 心配なかぜの発熱も、子どもの体が病気を抑える力なのです。
- したがって、少なくとも発熱が軽度で、ほとんど苦痛を訴えない場合には解熱剤の必要はなく、むしろ与えないほうがよいとされています。
- 生後3か月未満と3か月以上から3歳児未満、さらに3歳以上の年齢では、それぞれ発熱を起こす病気が違っていることがあるので、年齢によって対応は異なります。



- インフルエンザ等で高熱が続く病気に罹ると頭がおかしくなるのではとか、重い病気でもとても重症ではないかと心配になります。
- しかし一般状態が悪くなく、他に悪い症状（呼吸困難、意識レベルの低下、痙攣）がない発熱に対しては、
 - 1) 41.5℃をこえるような高体温以外は、生体防御反応の一つで早く病気をなおそうと体が、頑張っている証拠です。
 - 2) 熱が高くとも、元気が良く食欲もあり遊んだりしている時は、余り心配な状態ではありません。強い解熱剤を使用したり、熱を心配するあまり何回も繰り返し座薬等を使用したりすると病気が長引き副作用の危険もあります。
 - 3) もちろん高熱時は、普段より元気がなくなり食欲がおちるのが普通です。高熱が続けば体力も低下します。特に乳幼児の場合は心配です。少しでも、熱が下がった時は、水分を十分与え、消化の良い食事を少しずつ食べさせていくことが大切です。それでも、水分や食事を受けつけない場合は、状態に応じて適切な処置が必要になります。



次のような場合はしばらく様子を見てから翌日、お近くの小児科を受診しましょう。

- 1) きげんが良い
- 2) 食欲がある



次のような症状がみられたらなるべく早く急患診療センターなどを受診しましょう。

- 1) 生後3カ月未満で、38℃以上の発熱があったとき
- 2) 顔色が悪く、苦しそうにしているとき
- 3) 元気がなく、ぐったりしているとき
- 4) 38℃以上の高い熱が出て、頭が痛いとか、吐くなどの症状があるとき
- 5) 意識がもうろうとしているとき
- 6) 苦しそうに呼吸をしているとき
- 7) 強い腹痛をうったえるとき
- 8) ひきつけ（けいれん）を起こしたとき

熱中症

熱中症に気をつける時期になりました。

熱中症とは、私たちの身体がもっている体温調節機能（熱を産生したり、汗などで体温を下げたりする機能）が乱れることによって起きます。

原因としては、気温や湿度が高いなどの環境要因、高齢者や乳幼児・体調が悪いなどの身体的な要因、炎天下での労働やスポーツ・水分補給が少ないなどの行動的な要因があげられます。

いろんな症状がみられますが、死に至ることもあるので、次のような重症度に合わせた対応が必要です



【軽症】めまい、立ちくらみ、筋肉痛、こむら返り、大量の汗

- ① 涼しい場所に移動し安静
- ② 脱衣させ冷却
- ③ 食塩水(水 500mL に茶さじ1杯分の食塩5g)、経口補水液（OS-1、オーエスワン）やスポーツドリンク(ポカリスエット)に食塩を少量加えたもの（1 L に食塩小さじ 1/2）
⇒ 改善しない場合は医療機関へ



【中等症】頭痛、吐き気、吐く、体がだるい、虚脱感、集中力や判断力の低下、水分を自力で飲めない場合 ⇒ 診療所、急患診療センターへ



【重症】意識がない、けいれん発作、高い体温、返事がおかしい、まっすぐに歩けない、走れない ⇒ 水や水で首や脇の下を冷やし、救急車を呼び病院へ



水分補給と暑さを避けること、暑いときは無理をしないことが大切です。

患者の約半数は65歳以上の高齢者です。高齢者は、暑さの感覚が鈍くなり、のどの渇きも感じにくくなります。夜中トイレに行きたくないという理由で水分を控えることは危険で、「こまめに水分をとる」ことが重要です。室内なら大丈夫ということはないので、温度計（簡易熱中症指数計付きもあり）を置いて室温を調節しましょう。夜間も含めエアコン・扇風機を風が直接あたらないようにし、温度調節を適切に行いましょう。室内にいてのどが渇かなくても、安静時で30分に一口、動いた時はコップに1杯は水分を補給しましょう。汗をかいたときは塩分も補給しましょう。自分だけは大丈夫と思わないで注意しましょう。

急患診療センターとは

新潟市急患診療センターは、市民の安心のために、医院や病院が診療時間外となる夜間や休日に、急に身体の具合が悪くなられた方の**応急診療**を行う施設です。総合病院とは違い、専門医がそろっておらず、また入院設備や高度の検査設備なども備わっておりません。診察と応急処置を行い、必要な場合は専門病院などに転送するシステムとなっています。診療に従事する医師は、平日日中は自分の診療所や勤務先に勤務しており、勤務後の夜間や休日に奉仕的な協力をいただくことにより、急患診療センターが運営されています。急患診療センターを継続していくために市民の皆さんの理解とご協力をお願いいたします。

電話対応について

急患診療センターを受診すべきか判断がつかない場合、まず電話にてご連絡ください。

※症状や様子を問い合わせいただくことで、受診すべきか、様子を見るべきか、他の専門医療機関への受診が適切かなど、おおよその判断ができます。

 025-246-1199

利用にあたって

健康保険証、各種受給者証（こども医療費助成受給者証など）などを必ずお持ちください。

※お持ちにならないと、医療費を全額自己負担していただくことになります。

■他の病院等から薬をもらっている方へ

薬を服薬されている場合は、「お薬手帳」等をお持ちであれば持参し医師にそのことを申し出てください。

※重複して薬を用いることにより、副作用などが生じることを防ぐため、必ず申し出てください。

■診療費の支払いについて

保険証をお持ちにならなかった方は、一旦全額をお支払いいただきます。後日、保険証等必要書類をご持参していただいた際に精算いたします。

また、診療費は時間帯によって深夜加算、休日加算などが加算されますので、平日昼間の診療費よりかなり割高になります。

■薬の受け取りについて

会計で薬が出ることを告げられた方は、センター内の薬局で薬をお受け取りください。

※内服薬等の処方箋は、応急処置として1日分（休み明けまで）しかお渡しできません。

■翌日はかかりつけの医師へ

新潟市急患診療センターは、急病人に対して応急の処置をするところで、病気が完全に治るまで治療にあたることはありません。

翌日は、地域の医師または専門病院等で治療をお受け下さい。薬も休み明けの分までしか出せません。

Q & A （質問に答えて）

Q1：急患センターを受診したが、該当する診療科の診察をやっていないという理由で断られました。急患センターなのになぜ診察してくれないのでしょうか。

A1：急患診療センターといいましても、全ての診療科・専門家がそろってはいません。平日夜7時から翌朝までは内科医と小児科医1人ずつ、整形外科は午後10時までとなっています。できるだけ対応するようにはしていますが、症状によっては当番医が対応できずに、他診療科（例えば、眼科や脳外科など）の専門医の診察のために、他医療機関の受診を勧めることがあります。これは、患者さんの利益を第一に考えてのことなのでご理解をお願いします。

当センターを受診すべきかどうか判断が付きにくい場合がありますら受診前に電話でご相談下さい。

Q2：急患診療センターを受診しましたが、お薬が1日分しかもらえませんでした。なぜでしょうか。

A2：病気やけがの発症直後には確実な診断ができないことが多く、受診の時点では、「緊急対応が必要かどうかの判断をさせていただく」ことを大きな目的としています。緊急の入院治療等が必要な場合には他医療機関へ紹介し、緊急性がないと判断した場合でも翌日かかりつけ医等で病状の変化等を確認してもらうこととしています。そのため、応急処置を行うとともに、薬も一日分（または休み明けまで）の分とさせていただいておりますのでご理解とご協力をお願いします。

診療時間

診療科目	診療日	診療時間
内科 小児科	平日	午後7時～翌日午前7時 (受付時間：午後7時～翌日午前6時30分)
	土曜	午後2時～翌日午前9時 (受付時間：午後2時～翌日午前9時)
	日曜・祝日	午前9時～翌日午前7時 (受付時間：午前9時～翌日午前6時30分)
整形外科	平日	午後7時～午後10時 (受付時間：午後7時～午後9時30分)
	土曜	午後10時～翌日午前9時 (受付時間：午後10時～翌日午前9時)
	日曜・祝日	午前9時～午後10時 (受付時間：午前9時～午後9時30分)
外科	平日	診察はしていません
	土曜	午後3時～午後10時 (受付時間：午後3時～午後9時30分)
	日曜・祝日	診察はしていません
産婦人科 眼科 耳鼻咽喉科 脳外科	平日	診察はしていません
	土曜	診察はしていません
	日曜・祝日	午前9時～午後6時 (受付時間：午前9時～午後5時30分)



＜急患診療センターの理念＞

市民と共に
市民に信頼される
救急医療の継続提供をめざします

＜理念の説明＞

- ① 市民の理解と協力、支援により円滑な運営が可能になります
- ② 職員は、質の高い急患診療を提供できるよう努力いたします
- ③ 超高齢社会、医師不足のなか、診療体制の維持継続を行うことが必要です

あとがき

発行号はいかがでしょう。
これから新潟の蒸し暑い夏がやってきます。熱中症にかからないよう、部屋の温度管理、水分摂取、体調管理に気をつけてお過ごし下さい。

新潟市急患診療センター

ホームページ <http://www.niigata-er.org>

新潟市医師会による救急疾患検索サイト

<http://www.niigata-er.org/search/>

発行：新潟市急患診療センター

〒950-0914新潟市中央区紫竹山
3丁目3番11号

TEL 025-246-1199